

■ 日 時

平成31年（2019年）3月15日（金） 18時30分～20時00分

■ 場 所

函館市役所8階 第2会議室

■ 議 事

報告

(1) 第1層協議体における地域づくりについて

議事

(1) 助け合いを広めるための全市的な地域づくりの検討について

(2) 平成31年度のくらしのサポーター養成研修について

その他

■ 配付資料

- ・資料1 第1層協議体における地域づくりについて
- ・資料2 助け合いを広めるための全市的な地域づくりの検討について
- ・資料3 平成31年度のくらしのサポーター養成研修について

■ 出席委員（10名）

阿知波委員，池田委員，川口委員，木村委員，酒井委員，所委員，能川委員，
林（珠）委員，林（優）委員，丸藤委員

■ 欠席委員（1名）

佐々木委員

■ 傍 聴（4名）

■ 報道機関（1名）

■ 市職員（事務局）

地域包括ケア推進課 小棚木課長，相澤主査，古口主任技師，田畑主任主事，
関主任主事

高齢福祉課 佐藤課長

■ 会議要旨

池田会長

それでは報告（１）「第１層協議体における地域づくりについて」市から説明願いたい。

田畑主事

(資料１「第１層協議体における地域づくりについて」に基づき説明)

池田会長

市の方から説明があったが、関連する取組で３月９日に地域ケア全体会議が行われているが、すごく良い取組だったと聞いている。川口委員参加してどうだったか。

川口委員

ホテルで実施するイベントだったので、堅苦しい会議だと思っていたが、そうではなかった。北浜町会の取組が紹介されたがこれが素晴らしかった。敬老会について、少し角度を変えて中学生を入れ、お年寄りの方が喜ぶ仕組みを作っていた。我々も肩の力を落として今後取組を行っていきたいと思う。

池田会長

木村委員参加してどうだったか。

木村委員

民生委員として参加したが、聞いた話の内容が良かったので、早速町会関係者に電話した。また、お年寄りの方々がどのような考えを持っているかを確認するため、老人クラブの会長に電話した。

池田会長

他に参加された方は。

丸藤委員

「えんたくん」がワークショップで出てきた。役所の会議で「えんたくん」が出てくると思わなかったし、あれだけ大規模の会議で使うのは勇気があると思った。色々な意見が活発に出ていたので、良かったのではないかな。出た意見等を情報共有していただけると助かる。

池田会長

３月９日の会議で出たような意見は、前回の協議体のグループワークでも出ていたと思う。先ほど市の方から前回のグループワーク結果について説明があったが、次の議事に関して、第２層からも地域づくりについて色々課題が出てきているようなので、合わせて議論したいと思う。議事（１）「助け合いを広めるための全市的な地域づくりの検討について」説明願いたい。

丸藤委員

生活支援コーディネーター連絡会に関する内容となるので、私から説明させていただきます。
(資料2「助け合いを広めるための全市的な地域づくりの検討について」に基づき説明)

池田会長

林(珠)委員も連絡会に参加しているが、補足はあるか。

林(珠)委員

補足は特に無い。3月9日に開催された地域ケア全体会議では北浜町会の報告で私も登壇した。第2層の活動は地道にできているが、どうしても越えられない壁がある。北浜町会を例にすると、地域と学校には壁がある中で、中学生の参加に繋がったのは、コミュニティスクールのおかげだった。普段我々が活動する中で、学校とはどうしても壁ができてしまうので、もう少し学校と連携するに際し、敷居が低くなると助かる。学校との敷居が低くなると多世代交流も進むと思う。雪かきの問題についても、一部の地域では解決に向けた取組が行われている。そのような取組を全市的に広げていければと思う。全市的に取組が見える化すると、市民の意識も自ずと変わってくると思う。

池田会長

生活支援コーディネーター連絡会から、全市的に取組むべき3つの課題が提案された。1つ目が高齢者の移動手段の確保、2つ目が雪かき、3つ目が地域住民への助け合いの意識醸成となっているが、一度に3つを検討するのは難しいことから、優先順位を決めて検討していきたいと思う。まずは高齢者の移動手段について順番に意見をいただきたい。

酒井副会長

1人か2人しか乗っていないような、空席が目立つバスが走っているのを見るので、そのようなバスを函バスと連携し、有効活用できないか。

所委員

バスの運行に関して、以前、西部地区付近でジグザグに走るバス路線ができて、始めは利用者も多かったようだが、時間がかかりすぎるという理由から段々利用されなくなったことがあった。もったいないと思う。また、バス車両に関して、新しい車両と古い車両がある。古い段差があるバス車両だと、高齢の方が乗れない場合があり、外出できないという声が利用者から聞こえる。高齢者の利用が多い時間帯は低床のバスを走らせる等工夫をしてほしいと思う。

川口委員

東部では社会福祉協議会が所有するバスがあり、バスの利用が無い時は借りることができる。町内会の活動があるときで、バスが空いているときはもう少し活用していきたい。

林(優)委員

高齢者の移動手段としては、バスよりは小さい車の方が利便性は高いと思うが、運転手が不足しているので難しいと思う。よって高齢者の方が使いやすいよう、バス会社で路線を工夫してもらえよう願う必要がある。

能川委員

私が所属している団体の平均年齢は75歳前後であるが、集まりの場に来ることが課題となっている。ある程度付き合いがあり信頼関係があると、乗り合いで来ることはできるが、新しく入った方は自分で移動手段を確保しなければならない。特に雪道のため、12月～2月の参加率は下がってしまう。有償ボランティアが広がってきているので、その1つとして送迎についても広がってほしいと思う。

木村委員

私自身バスに乗ることはあまりないが、移動手段の確保策として、銭亀方面で商業施設等を巡回するバスが走り出したのを聞いている。

阿知波委員

木村委員のおっしゃったとおり、町会長が集まって函バスに要望した結果、コミュニティバスの試験走行が始まったと聞いている。色々な仕組みづくりができてきていると思う。

池田会長

買い物送迎に特化したバス、病院送迎に特化したバス、そのような目的バスを循環させれば一定程度の利用者がいると思う。効果と実現可能性を考えるとどうだろうか。

能川委員

効果は高いと思うが、実現可能性は低いと思う。

川口委員

陣川のコミュニティバスと同じく、銭亀のケースでも町会長が集まり、実際の利用者の推計等の情報を集め要望し、運行を実現させた。

阿知波委員

収益は広告費でも賄っていると聞いている。

川口委員

企業なので収益も大切だと思う。

林（珠）委員

移動手段の確保については、東部で深刻だと聞いている。

川口委員

社会福祉協議会が所有するバスがあり、バス利用の無い時は借りることができることから、今後は町内会の活動をバスの借りられる時間帯で実施する等工夫したい。

林（珠）委員

バスの利用を希望する方が多くいると思うが、空席が目立つバスが走っているということは、利用者が使うのに不便な路線となっているのか。

川口委員

全体的に人口も減少し、バスに乗る人自体が少なく、採算が取れていないと思う。

丸藤委員

退職したバスやタクシーの運転手の方が、空いている車両を使えるような仕組みがあれば良いと思う。

川口委員

東部地区では20人以上で使えば無料となる福祉バスを持っており、そのバスの運転手は函バスの退職者が担っている。

丸藤委員

4～5人乗れる自由度の高い車両だと利便性が高いと思う。

池田会長

各町会でどれだけの需要があるか、ニーズ調査を行う必要がある。需要の無い町会を走っても乗車する人はおらず、時間がかかるのみである。その調査を踏まえて目的バスを走らせれば実現の可能性が出るのではないか。

能川委員

テーマとは少し離れるが、地域の高齢者と話をすると、行くところが無い、行きたいところが無いとの声も聞く。このような高齢者の方は、バスやタクシーにも乗ることはない。行きたいところがたくさんあれば、アンケートでも良い回答が返ってくるかもしれないが、行きたいところが無いとアンケートを実施してもあまり良い回答が返ってこないのではないか。

池田会長

そのような方は病院に通うこともないのか。

林（優）委員

最近では病院で送迎バスを走らせているので、病院には通うことができると思う。それ以外の買い物や美容室に行く場合は、高齢者の方は1人では行けないので、同伴者が必要となる。そのことも問題になってきていると思う。

木村委員

うちの近所の美容室では送迎も行っており、近くにはスーパーも何件かあるので、乗り物に乗る高齢者は少ないと思う。

池田会長

どうやら話を聞いていると、移動手段の確保に関する問題は、町の中心部というより東部地区や銭亀・陣川など離れたところで深刻なようだ。能川委員の町会館は高齢者の方が歩いて集まれる距離にあるのか。

能川委員

高齢者にとっては結構遠い距離にあると思う。私自身も高齢者の1人だが、自分でもそう思う。それでも町会館で楽しそうなイベントを開けば、何としても来る人は来る。

川口委員

東部は社協からバスを借りられると助かる。

阿知波委員

恵山の方で良く使われているが、社協には福祉バスもある。

川口委員

町会で使うには使いにくいかもしれない。乗り合いで町会のイベントへ集まる場合、急遽運転手が参加できなくなると他の参加予定者も参加できなくなる。

池田会長

小回りの利く移動手段は必要だと思うが、運転手確保や、事故があった際の責任の所在が問題となる。

丸藤委員

具体的な対策については今後考えるとして、今回は優先順位を考えていただきたい。

池田会長

時間も押しているので、次の雪かきの問題について考えたい。私は子供のころ子供会の会長をやっており、近所の雪かきをやっていた。今は子供会のような組織はあるのだろうか。

能川委員

今はそのような組織は聞いたことが無い。

池田会長

無いのであればそのような体制を作りたい。

林（珠）委員

古き良き昭和の時代に戻ることができれば、今出てきているような問題は解決すると思う。そうではない今の社会をどうするかということになる。

池田会長

子供が雪かきをすると、その親も雪かきをすると思う。

能川委員

私は逆に、子供を動かすには、親の理解を得る必要があると思う。親の理解が無ければ、事故があった際のクレームになると思う。

所委員

親の時代から自分の家の周りの雪かきを行うという習慣が根付いていると、家の近くの歩道の雪も綺麗に除雪されているが、20代くらいの新しい家族が引っ越してくると、自分の家の前の雪かきしかせず、その周りの部分だけ、歩道が歯抜けのような状態になってしまう。そうなってくると歩道に雪があるところについては、道路を歩くことになり、危ない状態となる。自分の所だけではなく、自分の周りも雪かきしてくれるようになればと思う。

池田会長

市で雪かき用の除雪機は何台貸し出しているのか。

佐藤課長

100台位である。町内会で借りて、通学路や歩道など皆が通るところの雪を除雪するのに使ってもらっている。油代や保険など必要経費は市が負担している。

林（珠）委員

除雪機の貸し出しを行っているのは知っているが、使える人材がいない町会があるとも聞いている。町会の構成員の高齢化で、除雪機を使いたくても使えない状況が生じている。

川口委員

地域性もあるので、町会を集めて使い方を聞けば良かったかもしれない。

佐藤課長

市の立場としては、1歩・2歩前進したということで。

林（珠）委員

なんとなく話を聞いていると、制度があっても知らなかったり、痒い所に手が届かなかったりと勿体無いと思う。

池田委員

若い人達がもう少し使ってくれればいいと思うし、動かす仕組みも必要だ。向こう三軒両隣、お互い様ということで、近所の方が周りの雪かきをしていくしかないと思う。

川口委員

最近コミュニティスクールの関係で、学校の校長から、町内会活動に参加するので、積極的に声をかけてほしいと言われている。今まで地域と教育は離れすぎていたが、近づき始めている。

林（珠）委員

コミュニティスクールに関しては、私達も勉強しなくてはと思っている。なぜならば、私達がとらえているコミュニティスクールと学校が考えているコミュニティスクールには認識の違いがあると思う。学校もそうではあるが、PTAもうまく活用できないかと考えている。

林（優）委員

最近学校が統廃合される傾向にあり、通う児童の通学距離と時間が長くなり、親たちはピリピリしている。うちの職員にもいるが、端から端まで、本来スクールバスが走っていなければならない距離を毎日子供が歩いていて、それ以外で子供に地域活動をさせることは考えられないと言っている。子供に協力してもらおうのは厳しいと思う。

川口委員

PTAに町会を入れると、うまくいくような気がする。

池田会長

小学校・中学校が少なくなり、校区がどんどん広がっている。そういった意味では難しい問題かもしれない。一度教育委員会の方に協議体に参加してもらい、地域づくりにコミュニティスクールをどう活用するかなど聞いてみたい。教育委員会に関しては次の課題にも繋がるので、次に進みたいが、雪かきの効果・実現可能性についてはどうか。効果・実現可能性について、高齢者の移動手段よりは高いとして良いか。

(特に反対意見なし)

それでは次に助け合いの意識醸成に移りたい。これが一番可能性あると思う。

林(珠)委員

学校によって意識に温度差があるように感じる。実施する内容は学校によって異なる。例えば福祉教育を考える場合、1年生から6年生まで、ある程度一定したカリキュラムを組めないか。

池田会長

湯川小学校では、高齢者の疑似体験や認知症サポーター養成講座を実施している。函館市内の中学校の多く、80%位で高齢者の疑似体験をしている。学校設定科目か総合的な学習の時間でやっていると思う。うちの高校からも毎回行って協力している。社協もやっているのではないか。

阿知波委員

福祉教育はボランティア協力校とリンクするような形で、市内一円で広めていこうとしている。初期段階では、ノーマリー教室2年、道の協力校の指定が3年、社協の指定で5年の計10年のスパンで、福祉教育を広めようとやってきた。それがひととおり終わったので、市の事業と社協の自主事業と合体させるような形で、手上げ制で現在やっている。実施内容については改良の余地があると思う。その中で、高齢者疑似体験の福祉機器の貸し出しも行っている。

池田会長

高齢者の疑似体験の前には色々な話をする。障がいを持った方が普通の暮らしができる幸せということで「福祉(ふくし)」を念頭に話をしている。少しは進んできていると思うが、継続していかなければ意味が無いと思う。1回きりでは駄目だが、継続することで意識が醸成されてくる。総合的な学習の時間や特別活動の時間があることから、その中でうまく組み入れていけば良いと思う。学んだ子供が大人になるまで時間はかかるが、実現可能性と効果は一番高いと思う。

林(珠)委員

10年後を見据えた取組となるが、福祉教育は重要だと思う。個人主義が強くなってきており、また、函館は特に高齢化率も高くなってきているので、先手先手の取組が大切である。

池田会長

教育委員会の方にも来ていただき話し合えば効果が望めるのではないか。

古口技師

第2層生活支援コーディネーターとの話でも良く出てくるが、教育現場がいっぱいいっぱいな状況の中、大人がやらないで、全部子供に背負わせるということでもいいのか。子供が学ばなければならないことは多くあり、最近では先生の勤務時間も減らす傾向にもある。このような背景がある中で、本当に実現性が高いのかと疑問に思う。

池田会長

働き方改革はあるが、福祉教育は放課後にやるものではない。総合的な学習の時間の1コマに充てることができると思う。実現の可能性は高いと思う。問題は市教委が学校教育の中にどれだけ組み込んでいけるかである。

佐藤課長

学校の先生からは、やることが沢山あると聞いている。認知症のコマを1つ設けるにしても、準備の時間もあるし、認知症のコマの振り返りの授業やまとめの授業も付随してくる。どのような流れで認知症の授業を進めるかある程度形を決めてお願いしなければ、先生に選んでももらえないと思う。ただ実際やってもらえれば、子供の頃から意識を高めるのに役立つと思う。先生が授業を取り入れやすくするため、授業の進め方等を示すことが大切だと思う。

池田会長

全体の内の何コマかを割けばよいので、可能性はあると思う。

林（珠）委員

授業のカリキュラムについては専門家に任せてパッケージ化してもらえばいい。

佐藤課長

実際市教委は学校の授業についてあまり口を出せない。基本的に決めるのは学校である。もし投げかけるのであれば、校長先生の会議等になるのではないかなと思う。

小棚木課長

コミュニティスクールが動き始めているので、タイミングとしては良いのではないかなと思う。

林（珠）委員

コミュニティスクールの形が全てできてしまう前の今のタイミングがちょうどいいと思う。現在のコミュニティスクールは地域の町会活動に生徒を参加させることで完結している。私たちはその次の段階も必要だと思っている。その辺が歩み寄れば、色々繋がっていくと思う。

池田会長

今までの話から、助け合いの意識醸成が実現可能性と効果が一番高いと思うがどうか。

所委員

助け合いの意識醸成が行われると、雪かき問題や高齢者の移動問題も解決していくのではないかな。

池田会長

交通の問題は市全域というよりは、東部地区など一部の地域の問題だと思う。よって助け合いの意識醸成について今後解決策を検討することで良いか。

(各委員からの異議は特に無し)

それでは助け合いの意識醸成について今後解決策を検討していく。続いて議事(2)「平成31年度のくらしのサポーター養成研修について」市から説明願いたい。

田畑主事

(資料3「平成31年度のくらしのサポーター養成研修について」に基づき説明)

池田会長

平成31年度のくらしのサポーター養成研修の実施について意見等はあるか。

川口委員

前回、榎法華地区で行われた研修に参加したが、一緒に出た方がばらばらになると困るので、早速ボランティアサポート榎法華という形でチームを作った。ステップアップ研修ができれば、皆で参加してみたい。

池田会長

阿知波委員，補足はあるか。

阿知波委員

来年度のくらしのサポーター養成事業の大筋の方向性は社協も同じである。具体的な進め方については市と相談していきたい。今までくらしのサポーターを養成し、登録者が150人近くおり、意識の高い方が集まってきた。登録者のうち、実際に地域で活動できる人が何人いるのか把握したい。サポーターを養成しながら、随時単発で情報提供しマッチングをしてきたが、本格的なマッチングのスタイルは窓口を一本化するなど新年度に向けて整理が必要であり、第1層・第2層生活支援コーディネーターが参加する連絡会とも連携していきたい。住民主体の活動のキーパーソンおよび担い手として居場所づくりを目的としているが、今一度「くらしのサポーター」とは何をする人なのかをシンプルに言えるようにしたい。

池田会長

それでは進む方向性も見えてきたので、そのように進めてほしい。全体をとおして何かあるか。

(特に無し)

では、これで議事を終了したい。進行を市にお返しする。

関主任主事

今回は7月末頃に開催予定である。新年度に入ってから委員の方の都合を確認し、日程を決めたい。

これをもって、函館市地域支え合い推進協議体の今年度第3回目の会議を終了する。